

第3回分科会活動報告

日 時：2011年8月25日（木）

場 所：信州松代ロイヤルホテル

出席者：24名（内訳：正会員10名、賛助会員他：14名）

記録者：日本大学理工学部 惠藤 浩朗（第一分科会運営委員長）

テーマ：社会人基礎力、ワークショップ

1. 配布資料

- (1) 2011年度第3回第一分科会プログラム
- (2) 2011年度第3回第一分科会出欠名簿
- (3) 講演資料「社会人基礎力を育むための工夫は～新しい教育手法 SBL」
- (4) 「就業力育成支援事業」対応社会人基礎力測定（SBL方式）トライアルキット
- (5) 社会人基礎力育成講座運営資料 ワークショップについて
- (6) 講演資料「NPO・地元企業と連携したキャリア教育プログラム」
- (7) パンフレット「学びのフリーマーケット」

2. 研究活動内容

- (1) 全体会 9:00～9:10
 - a. 開会の挨拶
 - b. 事務局より連絡

(2) 【自分発見！社会人基礎力養成講座】

ご講演およびワークショップ 9:10～12:00

テーマ：「社会人基礎力を育むための工夫は～新しい教育手法 SBL」

講演者：就業力育成支援コンソーシアム 会長 宇野氏

この分科会では、午後に就業力についてのグループワークを設けているため、まずテーマとなる社会人基礎力（就業力の1つ）について、宇野氏の講演で学ぶことにしました。ここで社会人基礎力についてですが①前へ踏み出す力（アクション）、②考え抜く力（シンキング）、③チームで働く力（チームワーク）の3つの能力を12の要素に細分化されたものと説明を伺い、その後、皆でSBLによる社会人基礎力の



測定を実施しました。SBL（Story Based Learning）とは、ある筋書きと環境設定の中で設定されたアバターが課題を解決する上で、どう課題を解決するのか選択肢の中から選び評価されるものでした。例えば簡単に言いすぎですが「仕事が終わっていないが予定がある、どうする？①帰る②残業する・・・」といったものです。そこでワークショップとして参加者全員が新人会社員をアバターとして、実際に30分間かけてSBLを体験し、各自の社会人基礎力12項目を計測しました。結果はレーダーチャートにより示され、皆、自分は計画力が低い、主体性はある方だなどと話しながら、とても楽しくSBLを体験しました。

(3) 【地元企業に愛される人材育成の紹介】

ご講演 13:00～14:30

テーマ：「NPO・地元企業と連携したキャリア教育プログラム」

講演者：聖泉大学 人間学部 教授 有山氏

午後はNPO・地元企業と連携したキャリア教育ということで有山氏から話を伺いました。ついキャリア教育と聞くと、就職後に役立つ技能を身につけるものだと思いますが、この講演で受けたキャリア教育の印象は全く異なるものでした。確かに社会へ出た際、役立つ力をこのプログラムでは教育されています。しかしこのプログラムで教えていることは、技能ではなく「就職後、良き社会人としてどう生きていくか、という問いに対して、確信ある答えを見出すこと」でした。そして学生は「地域社会や会社を利用してどんな夢を手に入れられるか」、社会は「その活動からどんな夢を与えられるか」といった、学生が社会に対する役割を自覚し使命感を養うキャリア教育だという話を伺いました。「学生は地元からの期待や感謝と引き換えに、自己の成長を受け取る」と熱く語られる有山氏に、魅力を感じずにはいられないご講演となりました。



(4) グループワーク 『6つの帽子』 14:30～17:30

テーマ：「就業力を考える」

ファシリテータ：宇野氏

グループワークを実施する前に3つのアイスブレイクを実施しました。まず1つ目のアイスブレイクは他己紹介、これは2名ペアで趣味や好きな食べ物などについて5分間話し合い、その後、全体に向けて相手の人のことを紹介するといったもので、コミュニケーションを取りやすい雰囲気づくりに役立つものでした（傾聴力・発信力）。2つ目はリレー紹介、これはまず1人目が「私は〇〇です」と名前を言い、次に2人目が「私は〇〇さんの隣の□□です」、そして3人目が「私は〇〇さんの隣の□□さんの隣の☆☆です」、と次々にリレーで名前を紹介するもので、途中で間違えると初めからという過酷で楽しいアイスブレイクでした（主体性・発信力・傾聴力・課題発見力・柔軟性）。最後の3つ目はバースデイチェーン、これは年齢に関係なく60秒以内に全員が誕生日順に並ぶというもので、皆、大きな声を挙げながら楽しんでいました（発信力・働きかけ力・傾聴力・状況把握力）。

そして、これらのアイスブレイクにより皆が話しやすくなった所で『6つの帽子』という手法のグループワークが実施されました。ではまず『6つの帽子』について説明します。これはデ・ボノ博士が開発した思考法の1つで、6つの視点から意識的にものごとを見ることで斬新なアイデアを得ようとするものです。具体的にはグループディスカッションの際、好き勝手に発言するのではなく、リーダーが例えば「黄色い帽子をかぶり利点を挙げて下さい」などと視点を定めた発言を促すもので、皆はそれに従い発言、議論するというものでした。ここで6つの帽子（6色）の意味も紹介しておきます。①白：中立で客観的な視点、②赤：感情を直接表現する視点、③黒：真面目で思慮深い視点、④建設的かつ積極的な視点、⑤：創造性と新しい考え方に着目する視点、⑥青：冷静で超越した視点で議論が適切か判断するリーダーがかぶる帽子、となります。今回は分科会の参加者を4グループに分

け、それぞれにリーダーを置きディスカッションを開始しました。ディスカッションのテーマは「就業力について考える」です。①大学：どんな人材を育てるべき？②企業：どんな人材を獲得したい？③学生：就活生は何をするべき？といった3つの観点から議論できるよう、各テーブルに大学関係者、企業の方、就職活動を終えた大学院生やこれから就職活動を行う大学生を配置し、グループワークを実施しました。アイスブレイクの効果か、皆が躊躇なく積極的に話し合いを始めたことには驚きました。さて本題の「就業力について」ですが、私の参加したテーブルでは、最近の学生の質が低下しているのか、大学は社会人基礎力といった視点を持つ教育をすべきか、企業はどんな学生を求めているのか、といった話題で白熱した議論が実施されました。小生もリーダーの立場であったため、本来は青い帽子で発言しなければならなかったのですが、つい赤い帽子ばかり持って感情を直接表現し議論してしまったことに反省しております。合計3時間にわたるグループワークの最後、代表者に各グループで話し合われたことを紹介していただきました。我々のグループではインターシップで参加した学生に総括を述べていただきましたが、その学生の堂々とした態度や的確に要点をまとめて発言する姿に「さすが富士通にインターンとして採用された学生は違うな」と改めて思いました。



3. まとめ

今回の分科会は朝から夕刻までの長丁場でしたが、終えてみるととても興味深く、そしてバランスの良い分科会を実施できたのではないかと思います。まず午前中にキーワードを学び、ワークショップでそれを体感し、また午後には胸熱くなる講演を伺い、参加者のコミュニケーションを高めるためのアイスブレイクをいくつか取り入れながら本題のグループワークを実施する。このような流れがあったおかげで、最後のグループワークで大学の視点、企業の視点、学生の視点で活発な議論がなされたのだと思います。また今年度の第一分科会の特徴ともいえる「分科会に学生が参加する」という試みについても、その効果を存分に発揮して、様々な視点の考えを含んだ話し合いを実施できたのではないかと思います。社会人基礎力は今や大学としても企業としても欠かせないキーワードとなっております。この重要なキーワードに対して、これだけ活発な議論ができただけでも大きな成果のある分科会が開催できたのではないかと考えています。

以上